

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科(科目)	商業(総合実践)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(総合ビジネス科)
使用教科書	「総合実践(同時同業法を中心として)」実教出版				
副教材等	「総合実践演習ノート」実教出版				

1 学習目標

- ①商品売買業における仕入・販売活動に伴う、基礎的・基本的な文書の流れを学ぶと同時に、その文書の作成と処理および記帳に関する知識と技術を同時同業法により習得させる。またコンピュータを利用した会計処理を学ばせ、社会で活用できる技術を習得させる。
- ②自らの将来の希望する進路を実現するために必要な態度を育成し、知識を習得させる。また、学習活動の中で言葉遣いやビジネスマナーを習得させる。
- ③商業の各分野に関する知識と技術を総合的に習得し、課題分析能力・情報収集能力・問題解決能力・判断力・意志決定能力・結果責任意識力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

2 指導の重点

企業の経営活動における基本的な取引文書の流れや経理業務を学びながら、社会人としてのマナーや態度を育成することに、指導の重点を置いています。

- ① 取引実践では基本的な文書作成や記帳に重点を置き、知識・技術の習得を目指します。
- ② 経理業務に対応するため、コンピュータを利用した会計ソフトを使いこなせる技術の習得を目指します。
- ③ 社会人としてのマナーや態度を育成するため、言葉遣い・応対・通信文作成を中心としたビジネスマナーの指導に重点を置きます。
- ④ 学習の理解度ををはかるため、毎単元学習後に理解度テストを実施します。

3 学習計画

学期	月	学習内容	時間
1学期	4	オリエンテーション ビジネスマナー	26
	5	同時同業による取引実践(仕入取引) ↓	
	6	同時同業による取引実践(販売取引) ↓	
	7	同時同業による取引実践(月末・決算業務) ↓	
2学期	8	同時同業による取引実践(クラス同士取引を行う) ↓	30
	9		
	10		
	11	コンピュータ会計	
	12	決算業務	
3学期	1	総合演習・まとめ	14
	2		

計70時間(47分授業)

4 課題・提出物等

各単元で配布したプリント・日誌・作成した書類等はファイルに整理し、学期末に提出。

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスに対する望ましい心構えや実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的知識と技術を活用して適切に判断し、成果を表現する能力を身につけている。
技能	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、適切に処理する能力を身につけている。
知識・理解	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、ビジネスの意義や役割を理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・学習への参加姿勢・態度（出席状況）
- ・提出されたプリント・日誌・書類等（ファイルの整理状況）
- ・各単元でのテスト

6 担当者からの一言

3年間で学んだ商業科目の基礎的な知識や技術を生かし、実践的に学んでいく科目です。商業科目の基礎知識が必要であることはもちろん、課題分析能力・情報収集能力・問題解決能力・高度な判断力・意志決定能力・結果責任意識力・コミュニケーション能力などの実践的応用力が必要となります。卒業するまでにそれらの能力を身につけられるよう指導していきます。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（マーケティング）	単位数	2単位	学年（コース）	3学年（総合ビジネス科）
使用教科書	『マーケティング新訂版』（実教出版）				
副教材等	全商商業経済検定試験模擬問題、教科書準拠マーケティング問題集等				

1 学習目標

マーケティングに関する基礎的な知識と技術を修得させ、その意義や役割を理解させるだけでなく、マーケティング活動を計画的・合理的に行う能力と態度を育てる。

2 指導の重点

マーケティングの意義や役割及び市場環境の変化に対応したマーケティングの在り方について理解させるとともに、効果的なマーケティングを行うための知識と技術を習得させること。経済のサービス化など新しい動向への対応、生徒の就職への配慮、さらには、資格取得への対策にあたるのみでなく、小売業・サービス業の立場からの経営管理能力の育成と社会的な必要性を考え、消費者教育と環境問題の観点にも十分配慮して学習する。学習到達度の確認のため、全商商業経済検定マーケティングを受験する。

3 学習計画

学期	月	学習内容	時間
1学期	4	第1章 現代市場とマーケティング 1. 現代市場の特徴 2. マーケティングの概要	26
	5	第2章 市場調査 1. 市場調査の意味 2. 市場調査の手順 3. 実態調査の方法 4. 市場調査の実習	
	6	第3章 消費者行動 1. 消費者行動と購買 2. 購買意思決定過程 3. 製品のライフサイクルと普及	
	7	第4章 販売計画 1. 販売計画と販売予測 2. 販売計画の立案・実施・統制	
2学期	9	第5章 製品計画 1. 製品計画の概要 2. 製品ミックスと製品政策 *製品開発（商品開発）	30
	10	第6章 仕入計画と商品管理 1. 仕入計画 2. 商品管理	
	11	第7章 販売価格 1. 販売価格の決定 2. 価格戦略	
	12	第8章 販売経路 1. 販売経路の設定 2. 販売経路の強化	

3学期	1	(全商商業経済検定模擬問題集1・2級マーケティングを活用し学習) 第9章 販売促進 1. 販売促進の重要性	19
	2	2. 広告 * 広告の実習 3. 販売員活動 * 販売の実習	
	3	4. ブランド 5. 信用販売 6. その他の販売促進 * 店舗の立地と設計	

計 75時間 (47分授業)

4 課題・提出物等

- ① 授業で使用したノート・プリントの提出
- ② 授業中に使用する問題集の提出
- ③ プリント・レポート・感想文等の提出

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの諸活動について関心を持ち、その知識の習得を目的として意欲的に取り組む。 ・ビジネスマンとして望ましい態度を身に付けようと取り組む。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングに関する諸問題や変遷を経済生活との関連から的確に把握し、自ら思考する能力を身に付ける。 ・マーケティングの諸問題に対し、どのような問題解決方法を用いればよいかを、的確に選択できる。 ・問題提起や解決方法を的確にプレゼンテーションできる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの諸問題に対し、基礎的・基本的な知識と技術使い、問題を解決する方法を身に付けている。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングを学ぶ目的を理解している。 ・マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身につける。 ・マーケティングを学ぶ方法を理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
 - ・授業で活用する副教材
 - ・課題
 - ・学習への参加状況
- また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

マーケティング (marketing) とは、企業や非営利組織が行うあらゆる活動のうち、「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその商品を効果的に得られるようにする活動」の全てを表す概念である。

マーケティングの定義は様々に変遷してきているが、商品またはサービスを購入するポテンシャルのある顧客候補に対して情報提供 (情報収集) などマーケティング・コミュニケーション活動で相互学習状態を形成して購買に至らしめ、さらなるコミュニケーションのステップアップにて固定顧客化して顧客価値を高め、再購入や顧客連鎖を促進する、などの企業活動の拡大再生産 (あるいは維持) を図るための一連の行為であり、心理学、数学、社会学、経済学、そして文学・芸術等様々な知識の上から成り立つ高度なスキルである。

皆さんもこのようなスキルを身に付けられるように頑張りましょう。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科(科目)	商業科(ビジネス経済応用)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(総合ビジネス科)
使用教科書	実教出版 『ビジネス経済応用』				
副教材等	実教出版 『ビジネス経済応用』教科書準拠問題集				

1 学習目標

ビジネスに必要な経済に関する知識を習得させ、経済社会の動向について理解させるとともに、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

わが国における産業構造の変化や経済の国際化などビジネスに必要な経済に関する知識を習得させ、経済やビジネスの動向に着目させるとともに、経済に関する知識を応用して、ビジネスの機会をとらえた適切な経済活動や地域の資源を活用した地域産業の振興などを主体的、創造的に行うなど、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる。

3 学習計画

学期	月	学習内容	時間	検 定	
1学期	4	第1章 サービス経済化とサービス産業 第1節 産業構造の変化と労働 第2節 サービス産業の現状	38		
	5	第2章 経済の国際化 【1学期 中間考査】			
	6				第1節 企業の国際化・グローバル化
	7				第2節 国際化の進展と国際収支 第3節 貿易の利益と課題 第4節 国際資本移動 第5節 外国為替 【1学期 期末考査】
2学期	9	第3章 金融市場と資本市場 第1節 金融取引の発達 第2節 貯蓄と投資の動向 第3節 金融市場と資本市場の課題 【2学期 中間考査】	44		
	10	第4章 企業経営 【2学期 期末考査】			
	11				第1節 企業経営の特色
	12				第2節 企業経営と外部環境 第3節 企業の社会的責任 第4節 企業の海外進出と経営
3学期	1	第5章 ビジネスの創造と地域産業 第1節 企業の手続き	30	全商商業経済 検定	
	2	第2節 新たなビジネスの展開			
	3	第3節 地域ビジネス事情 【学年末考査】			

計112時間(47分間)

4 課題・提出物等

- ① 授業で使用したノート、プリントの提出
- ② 授業中に使用する問題集の提出
- ③ 作文・感想文・レポート等の提出
- ④ 長期休暇中の課題の提出

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">・経済や企業経営について関心を持ち、経済活動の動向について理解することを目指して、主体的に取り組もうとしている。・サービス経済社会に適切に対応する実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・経済社会の動向について理解することを目指して、思考を深めている。・経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、外部に表現する創造的な能力を身に付けている。
技能	<ul style="list-style-type: none">・経済社会の動向への考察やサービス経済社会に適切に対応する基礎的・基本的な技術を身に付け、活用することができる。・経済社会の動向への考察やサービス経済社会への適切な対応について合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none">・経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。・サービス経済社会に適切に対応することの重要性について理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
- ・授業で活用するプリントおよび問題集
- ・長期休暇に出題される課題
- ・学習への参加状況

また、1年間の評定は1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

わたしたちを取り巻く経済環境は時代とともに大きく変化し、とくに産業構造の変化や国際化が急速に進んでいます。この科目では、これらの変化の実情を理論とともにさまざまな具体例を通じて学びます。

経済に関する知識を応用して、変化の時代に対応できる能力を身に付けましょう。

※全国商業高等学校長協会主催の商業経済検定「ビジネス経済B」検定試験の受験が可能となります。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科(科目)	商業(経済活動と法)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(総合ビジネス科)
使用教科書	実教出版 『経済活動と法』				
副教材等					

1 学習目標

ビジネスに必要な法規に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、経済社会における法の意義や役割について理解させるとともに、経済事象を法律的に考え、判断する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 企業の経済活動に必要な法規や、社会生活を営む上で関連の深い法規の基礎的・基本的な知識を習得させる。
- ② 具体的な経済事象や社会生活上の様々な取引・権利関係を学習し、それを通して、法的に思考し判断できる能力を育成する。
- ③ 経済社会における法の意義や役割について学び、国際化や情報化等の経済環境の変化と法とのかかわりを理解させることを通して、法的な物の見方や社会認識を身に付けさせる。

3 学習計画

学期	月	学 習 内 容	時間
1学期	4	第1章 経済社会と法	26
	5	第2章 権利・義務と財産権 第1節 権利・義務とその主体 第2節 物と財産権	
		第3章 財産権と契約、その保護 【1学期中間考査】 第1節 財産権と契約	
	6	第3章 財産権と契約、その保護 第2節 物の売買 第3節 物の貸借	
7	第4節 契約によらない財産権の変動 第5節 財産権の保護 【1学期末考査】 第4章 企業活動に関する法 第1節 企業活動の主体		
2学期	9	第4章 企業活動に関する法 第2節 営業活動の自由と制限 第3節 サービス関連の企業活動と法 第4節 株式会社と法	30
	10	【2学期中間考査】	
	11	第4章 企業活動に関する法 第5節 手形・小切手と法 第1節 消費者と法	
	12	【2学期末考査】 第5章 社会活動に関する法 第2節 労働と法	
3学期	1	第5章 社会活動に関する法 第3節 家族と法	19
	2	第6章 紛争の予防と解決 【学年末考査】	
	3		

計75時間(47分授業)

4 課題・提出物等

- ① 授業で使用した課題・ノートの提出
- ② 授業中に使用する問題プリントの提出
- ③ 感想文・レポート等の提出

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">・経済立国を果たした法治国家に生きる国民として、不可欠な法的な物の見方や経済社会と秩序維持の関係に関心を持っている。・具体的な社会事象・経済事象に関心を持ち、法を踏まえた考え方ができる。・学習を通じて、社会人として法を順守し、公共の福祉に利する意識と態度が養おうとしている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・今日的な経済活動や社会生活上の諸問題に関して、その法的解決を目指して自ら進んで思考を深めている。・社会通念や慣習、一般常識を踏まえつつ、法律論を正しく認識し、法的判断ができる力を身に付けている。・様々な事例・事象に関して、正確に内容を把握し、問題点を的確に捉え客観化する能力を養っている。
技能	<ul style="list-style-type: none">・法的な思考・判断を、適切に口頭や文章によって表現し、相手に理解・得心させる技能を持つことができる。・明確化した問題を、自発的に解決できる能力を身に付けている。・多くの法律的な表現や専門用語を知識として身に付け、その意味を充分理解した上で、適切に駆使することができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none">・法律に関する基礎的、基本的な知識を正確に身に付けている。・各法律の意義や効果を充分理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
- ・授業中に使用するプリント
- ・休日課題
- ・学習への参加状況・態度

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

現在の社会生活が、経済活動に支えられていることは明白です。我々が安定した生活を営むためには、経済活動が公正に行われる必要があります。そのために“決まり事”＝ルールが必要となります。これは相次ぐ企業の不祥事等の社会問題を見ても明らかです。経済活動に留まらず、人が生きていくためにはルールが必要となります。我々は誕生から死まで、それどころか生まれる前から死後も含めて、常に“決まり事”で規定された人生を歩むのです。日常ではあまり意識することのない“決まり事”を学ぶことで、物の見方が変わるはずですが、物は一面から見ただけでは理解できません。常に問題意識を持って、多面的に学ぶことを求めたいと思います。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科(科目)	商業(財務会計Ⅱ)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(総合ビジネス科)
使用教科書	財務会計Ⅱ(実教出版)				
副教材等	財務会計Ⅱ問題集(実教出版)				

1 学習目標

これまでの簿記関連科目で学んできた基礎的な知識と技術をもとに、今日の複雑な取引慣行や企業活動に対応できる実践的な能力を身につける。今日の経済社会における企業のグループ化・国際化・情報化等の激しい変化に伴う、実務に対応した知識と技術を学ぶ。新しい会計の領域である分野の学習に重点を置き、連結財務諸表・キャッシュ・フロー計算書の作成や税効果会計、外貨建取引会計、リース会計など、今日の企業活動に対応できる知識と技術を習得することを目標とする。

2 指導の重点

- ①「財務会計Ⅰ」の学習を基礎として、財務会計に関する基礎的な知識と技術の習得することに重点を置き、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び提供された会計情報を活用する能力と態度を育てます。
- ②新しい会計の領域である分野の学習に重点を置き、連結財務諸表・キャッシュ・フロー計算書の作成や税効果会計、外貨建取引会計、リース会計など、今日の企業活動に対応できる知識と技術を習得します。

3 学習計画

学期	月	学習内容	時間	評価方法等
1学期	4	第1編 総論 財務会計の基本概念と会計基準 第1章 財務会計の基本概念 1 財務報告の目的 2 財務諸表の構成要素 3 財務諸表の構成要素の認識と測定	38	定期テスト 授業の取り組み
	5	第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 1 資産負債アプローチと収益費用アプローチの意味 2 資産負債アプローチ・収益費用アプローチと利益計算		
	6	第3章 会計基準の国際的統合 1 わが国の会計基準 2 会計基準の国際的統合 3 わが国の会計基準の特徴と国際会計基準への対応		
	7	第2編 各論(1) 財務会計の実際 第4章 資産会計 1 資産の評価基準 2 資産の評価方法 3 減損の会計処理		
		第5章 負債会計 1 負債の意味と評価 2 社債の期末評価と償還 3 退職給付引当金		
		第6章 純資産会計 1 純資産の意味と分類 2 新株予約権 3 分配可能額の計算 4 株主資本等変動計算書の作成		
2学期	9	第7章 リース会計 1 リース取引の意味と分類 2 ファイナンス・リース取引の会計処理 3 オペレーティング・リース取引の会計処理 第8章 税効果会計 1 利益と課税所得 2 税効果会計の意味 3 一時差異と繰延税金資産・負債	44	定期テスト 授業の取り組み
	10	第3編 各論(2) 企業活動の展開と財務会計 第9章 外貨換算会計 1 外貨建取引の意義 2 為替換算と為替差損益 3 外貨建取引の基本的な会計処理 4 外貨建項目の決算時の会計処理 第10章 キャッシュ・フロー計算書		

	11	1 キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性 2 キャッシュ・フロー計算書の表示区分 3 キャッシュ・フローの表示方法 4 キャッシュ・フロー計算書の作成手続き 5 直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成例 6 間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成例		
	12	第4編 各論(3) 企業結合の会計 第11章 企業結合会計 1 企業結合会計の意味 2 合併会計		
3学期	1 2	第12章 連結財務諸表の作成(その1) 1 支配の獲得 2 持分の変動 3 支配獲得までの段階取得 4 支配獲得後の追加取得 5 子会社株式の一部売却 6 連結財務諸表の作成 第13章 連結財務諸表の作成(その2) 1 持分方の意義 2 持分法の適用対象 3 持分法の会計処理 第5編 財務諸表の活用 第14章 財務諸表の活用 1 企業グループの現状把握 2 株価の判断材料 3 企業価値の評価 第6編 監査と職業会計人 第15章 監査と職業会計人 1 二つの法律と監査のしくみ 2 財務諸表監査の目的とリスク・アプローチ 3 監査のプロセスと監査手続 4 監査意見と監査報告書 5 監査の品質管理 6 職業会計人の社会的役割と倫理	30	定期テスト 授業の取り 組み 提出物等

計 112時間(47分授業)

4 課題・提出物等

授業で配布されるプリントや問題集の提出
使用した問題集の提出等

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	財務会計および監査について関心を持ち、その理論と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、会計情報を提供し、活用しようとする態度を身につけている。
思考・判断・表現	新しい会計基準や財務会計の基本概念について、なぜ、そのように考えて処理を行うのかなど自ら思考を深め、高度な知識と技術を活用して適切に判断する能力を身につけている。また、その成果を会計情報の提供および活用という形で適切に表現することができる。
技能	新しい会計基準に関する会計処理の技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に提供・活用することができる。
知識・理解	新しい会計基準やその処理に関する知識を身につけ、財務会計の基本概念や監査について理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

・年5回の定期考査 ・授業で活用するプリント ・課題や問題集などの提出物 ・学習への参加状況

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

3年次の「財務会計Ⅱ」は、今日の会計処理について実践的に対応できるように設定された科目です。単に資格の取得を目的とせず、目まぐるしく変化する経済社会における会計処理の内容について学んでいきます。そのためには1.2年次の簿記関連科目の知識が必要となりますので、しっかりとした基礎・基本を身につけておいてください。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（電子商取引）	単位数	2単位	学年（コース）	3学年（総合ビジネス科）
使用教科書	電子商取引（実教出版）				
副教材等					

1 学習目標

この科目の目標は以下の通りです。

- (1) 高度情報化社会における企業の役割を理解できる。
- (2) 情報通信ネットワークを活用した商取引の意義を理解させるとともに、それを行うための知識と技術を習得する。
- (3) 利用者の立場に立ったシステムを構築するため、コンピュータを効果的に活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

アプリケーションソフトを利用した実習に加え、インターネットを活用した商取引という視点から、メディアの特性を取り上げ、コンテンツやウェブの制作・公開を通じて、新たなビジネスモデルの考え方を身につけさせる。

3 学習計画

学期	月	学習内容	時間
1学期	4	第1章 情報通信技術の進歩とビジネス ビジネスの変化と情報通信ネットワークの活用と課題について学習する。	25
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引の必要性 ・電子商取引における広告・広報活動の特徴と用途 ・情報通信ネットワークの実態 ・個人情報、知的財産権の保護の必要性 	
	6	第2章 コンテンツの制作 ファイルの形式、図形、静止画、動画、音声、情報の統合について学習し、利用法を習得する。	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・図形・静止画・動画・音声などの特徴 ・図形情報の効果的な利用法 ・静止画・動画・音声データの取得方法やこれを活用するための技法 ・情報を統合することの意義や役割 ・情報を統合するための技法 	
2学期	9	第3章 ウェブデザインと広告・広報 ウェブページ制作までの手順、ウェブデザイン設計、ウェブページ制作の基礎、ウェブページ制作の応用について学習し、基本的な技法を習得する。	31
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブページを制作するための手順 ・ウェブデザインの意義や役割 ・デザインの基礎的な知識 ・HTMLの基本的なタグやスタイルシート（CSS）やJavaScript ・ウェブページ作成ソフトウェアやワープロソフトウェア ・CMSの意義や役割 	
	11	第4章 ウェブページの公開 ネットワーク機器の種類・機能と公開の方法について学習する。	

	12	<ul style="list-style-type: none"> ・通信ネットワークの仕組みや役割 ・ネットワーク機器の基本的な知識 ・ウェブページを公開するための手順 ・インターネットの基礎的な知識 	
3 学期	1 2	<p>第5章 電子商取引とビジネス 電子商取引のしくみ、企業間取引と企業対消費者間取引、電子決済のしくみと方法、電子商取引システムの作成について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引の意義や役割 ・電子商取引サイト開業に必要な手順 ・店舗運営を行うための基礎的な知識 ・取引対象が異なる電子商取引の違い ・電子決済の意義や方法 ・システム構築方法 ・ウェブページ作成ソフトウェアの使用 	19

75 時間 (47 分授業)

4 課題・提出物等

各単元で課題を作成し、提出する。

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおける電子商取引の必要性に気づき、商取引に情報通信技術を活用しようとする意欲を持って、電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引システムを構築するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、顧客の立場に立ったデザインに加工する工夫を行うとともに、分かりやすい情報発信ができる。 ・知的財産権を意識したウェブデザイン設計を行うことができる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・図形や静止画、動画、音声などのマルチメディアを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用および、ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用して電子商取引システムを作成できる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおける電子商取引の意義や役割を理解するとともに、ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や分析、企画・立案、制作、公開の手法を身につけている。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・学習への参加状況
- ・授業時に科される課題の提出物

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

実技中心の科目であるので、少しでも早く正確にデータ入力や編集作業が行えるように、向上心を持って授業に臨むこと。毎時間の授業に集中して取り組むことが大切です。